

長浜米原しょうがい者自立支援協議会 100 人部会
第2回まとめ

■日時:令和4年 7 月 20 日(水) 13:30~15:30

■場所:長浜まちづくりセンター多目的ホール/オンライン同時開催

■参加者:会場 33 名、オンライン15アカウント

■2回目の目的

・1回目の意見等(個別課題)の全体共有と、協議会としてとりわけ急いで取り組むべき課題(地域課題)の整理

■方法

・少人数のグループごとにワークショップ。会場4グループ、オンライン2グループ。

(会場→模造紙と付箋を用いた KJ 法。オンライン→ZOOM のホワイトボード機能を使用。)

・課題等を8つの中項目に分けた中から、協議会として喫緊で取り組むべき項目を2つピックアップ。なぜその項目を選んだのかを意見交換していき、グループで意見集約をして2つの項目をピックアップする。

■内容・意見・まとめ

・※別紙 ①協議会として取り組むべき課題のうち、特に優先度が高いもの(A3 サイズ)

②検討が必要なテーマ

協議会として取り組むべき課題のうち、特に優先度が高いもの
(100人部会第2回のまとめ)

項目		現状（ご意見）		課題		解決に向けて
制度・サービス	社会資源	サービスの不足		事業所が足りない		・なにが足りていないのか。どのサービスがどれくらい足りないのか？どんな資源がどこにあってどう使えば良いかを共通理解できているか？資源がないのか？あるのに使えていないだけなのか？どうしたら使えるか？まず知ることから始める。 →圏域の社会資源・実態調査【地域アセスメント】 （今までの部会で積み重ねた情報をまとめる+足りない部分の調査） →社会資源マップの作成 ☆感覚的なものではなく根拠を明確に。
				支給量が足りない		
				専門的な支援が足りない		
				サービスに無いものが必要なのか		
		養護学校卒業生の進路先の不足		計画相談の不足		
				通所事業所の不足		
		計画相談の不足、基盤となる相談支援体制の構築		相談員の業務が広範囲に及ぶ		・専門職の活用、連携
				相談員が相談できる機関が少ない		・フォーマルなアセスメント（多角的視点・専門的視点からのアセスメント）が気軽に使える。 →多機関ケース会議等の実施
		長浜市と米原市の福祉サービスの格差		長浜市の支給量が少ない（米原市の支給量が多い？）		・支援チームの中に専門的視点・当事者視点の支援者がいることで心強い
		医療的ケア対応ができる事業所の少ない		専門性の高い支援機関の不足		・具体的な時間数や現状をとりまとめ、行政に提言をする。
						・施策への提言+今ある資源の有効活用の方法の検討。
生活+就労（生活の充実）		豊かな生活を目指して		当事者性を中心に考えられていないのでは。		・ピアカン、ペアレントメンターの活躍の場を。 →ケース会議等の場で多角的な視点を。
				虐待ケースが増えている		・虐待防止への取り組み
				運転免許の取得が難しい		・しょうがい特性にあった合理的配慮の提供を求める。
				災害対策が不十分		・災害時個別避難計画の策定推進
		福祉就労のからのステップアップが難しい		福祉就労からのステップアップをどうすすめるか		・次のステップへ移行を推進できるような場の設定。生活介護→B型、B型→A型・一般就労を推進する一方で、施設入所→GH、GH→アパート暮らし等の地域移行を推進する。 →当事者の豊かな生活+入所・通所系サービスの不足を解消
		一般高校からの就労支援が必要		一般高校に軽度の知的しょうがいや発達しょうがい等の特性を持った方が多くいる。		・区別するのではなく、必要な方に必要な支援を。 →わかりやすい相談窓口。気軽に相談できる窓口の設置周知。
環境		移動手段が少ない（地域格差）		暮らし・就労・余暇いずれも移動が自由にできることが不可欠		・しょうがい者、高齢者等関係なく、誰にも優しいまちづくり。 →免許がない（運転しなくても良い）ことを前提とした地域づくり。
		地域格差が大きい		地域格差をどう埋めるか		
		公共交通機関の不足				
		外国人のしょうがい者支援が必要				
連携		医療との連携が難しい		連携が難しい理由はなにか。 ①連携先がわからない ②連携先がどんな支援をしてくれるか知らない。 ③今までの支援を否定される。連携を断られる、一方的に怒られるから意図的に連携をしなくなる。チームで同じ方向を向けない。（専門性）		・医療連携に関する財源があれば。 →財源確保に向けた取り組みと医療機関への協力依頼。 ・医療機関との連携を専門に扱う総合窓口があれば・・・ ・福祉事業所と関係機関をつなぐ役割（コーディネート機能）があれば良い →ネットワーク事業？ ・利用者に対しても、支援者に対しても多様な価値観を受け入れる。 →支援者を批判しない、否定しない。 ☆当事者の生活がより豊かになることを目指して地域を作っていくには、福祉以外の関係機関との連携は必須！
		他業種との連携が難しい				
		学校との連携が難しい				
		行政他課との連携			行政の縦割り	・しょうがい福祉課がしっかりと他課との窓口機能を果たす。
		働きたい人への支援と、働きたくない人への支援		どちらも就労支援に任せられている。		・関係機関の役割の明確化と連携が必須。
専門性		当事者からでてくる課題が環境や社会資源の改革へとつながる		相談支援専門員が当事者の代弁者であるはず。		・相談支援専門員の意識改革 →自立支援協議会専門部会の中心的な活躍を。
		本人支援だけでは解決しないことが多い。家族支援が必要。		相談支援専門員が一家まるごとの支援をしている。		・適切な関係機関との連携、協力が気軽にできる体制の構築。 →多機関ケース会議等の実施。
		専門性を持った人材不足と人材育成		困ったときに相談できる専門機関が少ない。わからない。		・圏域に不足している専門的人材はなにか？どういった役割を担う人がいれば良いか。 →必要の人材はなにか？調査。 ・今ある専門的人材をどううまく使うか。 →必要の専門的人材の育成と今ある資源の有効活用。 →必要に応じた財源の確保。 （・臨床発達心理士・重心ケアマネ・臨床心理士・作業療法士・認証ケアマネ・・・）
		医療機関との連携		医療機関の専門的な人材を地域でどう使うか？		
ライフステージ		8050問題		一家全体の支援が必要		・関係機関との連携、協力
		しょうがい者の高齢化		高齢になったしょうがい者の状態像に合わせた支援の提供が必要		・圏域で共通理解が必要。
		ライフステージに応じた支援の連携だけでなく、一貫した支援が必要。		ライフステージごとに支援が途切れる。 将来を見据えた長期的な支援を考えられていない。		・関係機関との協力、連携。旗振り役の配置。

■検討が必要なテーマ①～⑫

制度・サービス・社会資源

①社会資源マップ作成

→今ある社会資源の把握。資源にはこういった機能があるのか。誰が見ても関係機関が理解できる圏域全体の社会資源マップの作成。

②必要な福祉サービス等調査

→現時点で不足している、近い将来に不足するであろうサービスはなにか。これから必要となる支援はなにか。どうしたら充足できるのかを考える。

生活の充実

③地域移行推進

→医療機関・入所施設等から GH やアパート暮らし等への地域移行を具体的に進める。

④ステップアップ推進

→生活介護・就労継続支援 B 型等からのステップアップを具体的に進める。

⑤ピアカン・ペアレントメンター等当事者視点の有効活用

→多角的な視点のうち、当事者視点を有効に活用する。どのような活用の方法があるか。

専門性

⑥専門的人材の育成

→支援者が頼りにしたい支援者(専門的人材)を圏域として育てる。どんな役割の人をどう育てるかを考える。

⑦専門的人材有効活用

→事業所にいるスペシャリスト(専門的人材)を圏域として使えるようなシステムを作る。事業所や法人の枠を超えた人材の活躍。

⑧人材確保・人材定着

→福祉の現場に人材をどう集めるか、仕事のモチベーション維持をどうするかを考える。法人(特に小規模な事業所)を超えた人材交流・出向ができるシステム作り。

連携

⑨地域の中へ医療機関を

→医療機関関係者が地域でも活躍できるようなシステム・制度をつくる。

⑩コーディネート機能強化

→関係機関との「つなぎ(コーディネート機能)」に特化した役割を圏域として整備する。

⑪怒らない・建設的な関係(関係機関との気軽な連携)

→指摘や指導は歓迎だが、感情的に怒らない。支援者に対しても多様な価値観を受け入れる。自分の考えを押し付けない。建設的な関係を築き圏域で支援者を育てるということを考える。

環境

⑫移動手段の充実

→免許がないことを前提とした地域づくり。誰にでも優しい地域づくりを目指す。

